



特集一 日本文化の脱 構 築

ポストコロニアル批評の登場以降、日本文化を日本列島という画定された国土や単一民族・単一言語の枠内でのみ捉える短絡的思考は急速に無効化したと言ってよいだろう。にもかかわらず、日本を対象とする人文学の領域が現実の政治や教育そして文化の状況を変革するだけの有効な思想を獲得し得たかという点、それははなはだ疑問であると言わざるを得ない。国民国家論や戦後責任論などに関わる批評や研究についても、むしろ均質な批評空間が再生産されるばかりであるといった批判を聞くことも少なくない。日本文化は脱構築されなければならない。しかし、それに劣らず脱構築されなければならないのは、何よりも〈日本文化研究〉であり、〈脱構築〉の方法論そのものかもしれないのである。私たち『JunCture 超域的日本文化研究』が、その創刊に際して、「日本文化の脱構築」という特集を組むのも、以上のような問題意識に基づいている。グローバルかつ領域横断的な日本近現代文化研究の成果を発信し、超域的な研究を賦活することを目的とする本誌の最初の企画として、これ以上に相応しいテーマはないと考えた次第である。言語や分野の境界をこえた視点から〈日本文化研究〉の硬直した枠組みを問い直し、新たな展望を切り開く論考をここにお届けする。